

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立大草野小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・「主体的・対話的で深い学び」を軸とした授業改善が不十分であり、校内研修や授業研究会等の内容を深める必要がある。 ・特別支援教育を全職員で対応することへの意識が高まっており、継続させたい。
------------------	---

2 学校教育目標	笑顔いっぱい、生き生きと学び合う虫っ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	① 学び続ける子どもの育成（(1)学習意欲を喚起する手立ての工夫 (2)思考力・表現力の育成 (3)読書教育の充実 (4)望ましい学習習慣と学習態度の育成） ② 思いやりのある子どもの育成（(1)当たり前のことが当たり前に行える指導の徹底 (2)思いやりの心の育成 (3)自主的・自発的な態度の伸長 (4)特別支援教育の充実） ③ たくましい子どもの育成（(1)体育科学習の充実 (2)外遊びの奨励 (3)健康的な生活の習慣化 (4)食育の推進 (5)危機回避能力の向上）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標 (数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の進捗状況を確認し促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は83%。					・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○児童の活用力を育む授業づくりを目指し、全職員が公開授業研究会を1回以上行う。 ○授業の終末、自身の学びを振り返ることができる児童90%以上。	・算数科の授業を中心に、全職員が授業公開を行い、相互参観と授業研究会を実施する。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、授業の終末に振り返りの活動を設定する。	B	・10月までに、2、4、5年生の研究授業及び授業研究会、各クラスの振り返りの実践交流を通して、学力向上に対する課題を共有することができた。 ・児童に実態に応じて、ことばタイムや計算タイムでは、細やかな個別指導ができています。 ・算数の学習の振り返りの時間を確保し、94%が書くことができています。					・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○読書教育の充実	○年間130冊達成児童100%を目指す。 ○いろいろな分類の本に興味関心を持つ児童を増やす。 ○家庭での親子読書実施率を90%以上を目指す。	・教師やボランティアによる読み語りを実施するとともに、委員会児童の企画による図書館まつりを利用し、読書の奨励を行う。 ・親子読書回覧板を実施し、家読を勧める。	B	・「親子読書回覧板」が家庭での読書のきっかけづくりとなっている。 ・100冊を達成している児童が10月上旬で60人以上いる。2日に1回しか貸し出しができないが、貸し出しの日は、ほとんどの児童が図書室を利用している。					・図書館教育担当者 ・国語主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級活動や道徳の授業を充実させ、年1回以上の集会活動や体験活動を実施する。	・豊かな心を育む学級活動や道徳の授業を実施する。 ・人権集会や平和集会を行うことで、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティと連携し、体験活動を充実させる。	B	・平和集会を行い、平和の大切さについて考え、各学年で平和に関する標語を作り、人権や平和についての意識を高めた。					・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等の取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・QUテスト結果の分析活用やいじめの対応についての研修・会議を実施する。	B	・「QUテスト」の結果分析を行い、その後の学級の児童支援や学級経営に生かされた。 ・「心の相談アンケート」を実施し、気になる子には個別に対応したり、保護者との面談で活用したりした。					・生徒指導主事 ・教育相談担当者
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)90%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学習や体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90% ・共通の研究テーマのもと、校内授業研究会を3回実施した。今後5回実施する予定。 ・振り返りの活動に課題が残る。今後、活動のねらいと関連させて学びを深めさせる必要がある。					・教頭 ・教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○食事のマナーを守り、好き嫌いをなく、給食を食べることができる児童90%以上	・食器や箸の持ち方、食事の際の姿勢など、マナーについての指導を徹底する。 ・学校栄養士による食育の授業や給食だより、健康委員会の発表等を通して、食の大切さを知らせる。	B	・学校栄養士の食育の授業を行い、食への関心を高めることができた。 ・夏野菜の栽培や全校でのサツマイモ栽培を通して、育て食する楽しみを味わうことができた。 ・食事マナーに対する啓発はできたが、それを定着につなげることが不十分だった。					・体育主任 ・食育担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、定時退勤推進日の徹底 ・職員の意識改革 ・パソコン校内LANや共有フォルダの活用	B	・全職員の時間外勤務時間の平均30時間 ・定時退勤推進日は概ね達成できている。 ・夏季休業中に5日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。					・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標 (数値目標)								
○特別支援教育の充実	○支援体制の確立	○特別支援教育に関する専門性を高めるために年に4回の校内研修を行う。 ○支援を必要としている児童を把握し、個に応じた支援を行う。	・講師を招聘して職員研修を行う。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 ・ケース会議を行い共通理解を図る。	A	・必要に応じて、ケース会議を開き、保護者や専門機関と連携して指導支援を行った。 ・毎週支援を要する児童について、情報交換をし共通理解をして個に応じた支援を行った。					・特別支援教育コーディネーター ・特別支援学級担任
○安全対策	○危機回避能力の向上 ○危機管理及び安全対策の強化	○防犯ブザー所持率は100%にする。自転車の正しい乗り方を周知し、ヘルメット着用率は100%にする。 ○災害避難の理解を深め、自分の身は自分で守る意識を持たせる。	・防犯ブザー所持点検を毎月行い、自転車については保護者への啓発や交通安全教室等を行い、徹底を図る。 ・避難訓練、学級活動等に危険予知について具体的に指導する。 ・PTA、交通指導員、見守り隊と連携を図る。	A	・1学期の防犯ブザーの所持率は100%を維持継続している。自転車ヘルメットの着用率も100%できている。 ・避難訓練(不審者対応)、防犯教室、防犯ビデオ視聴を通して、危険予知について具体的に指導できた。					・安全担当者 ・生徒指導主事

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------